

1. 授業に関して準備する諸資料

- ・年間通じて：シラバス、学習指導計画、目標申告、各クラスの授業予定表など
- ・各授業：学習指導案やその略案（特に小学校 高校だと研究授業等） ※必要な方は写メで。

2. 授業デザインとは？

- ・毎時間の授業にはデザインが必要。
- ・授業デザインとは何か？

For 生徒のため

学習内容の理解にふさわしい教材、教具、授業方法（講義、実験実習観察、協働学習、ふりかえり）とは何かという設計。

For 成長する自分（教える教師）のため

教材内容が変化する場合（理科や社会）もしない場合（国語、数学、英語など）も教える技術を日々磨かなくては自己の成長はない。生徒も先生も成長する学校が「学習する学校」。

- ・授業デザインをしていく3段階

コンセプトデザイン：学習のねらい、生徒の到達目標、身に着けさせたい力とは？

教材デザイン：教育内容に関連した素材（副教材、関連図書、web サイト、動画、人）

教授法デザイン：いわば素材を生かした調理法にあたるもの。講義、生徒活動、振り返り

3. 授業の基本とアクティブラーニングについて

最近、アクティブラーニング（AL:生徒主体の能動学習のこと）の議論があります。このことについて私の見解は、やはり授業デザイン論が絡みます。授業デザインの中で、従来授業のように教師の説明中心が主になる場面（生徒には理解しづらい新出概念など）では講義中心になるかもしれませんが、ペアやグループでの演習や調べ学習が効果的と判断すれば、そこでは積極的に入れていくことをお勧めします。

ただし、例えばクラスの「生徒がざわついていて落ち着かない」、「教師の話を正視して聴けない」などのクラスで、いきなりALを入れるのはお勧めしません。授業崩壊を引き起こす可能性が高いです。あくまでも基本のレクチャーができる（板書、説明、生徒の理解度の状況把握等の基本ができる）上でのALであると思います。ALは、ただ能動的場面（実験や調べ学習、討論）が形式的に入っていけばよいというわけではなく、生徒に身に着けさせたい力や知識理解がどう定着しているかという指標のもとに行われる必要があります。

ALの基本構成としては、「講義→演習（協調学習）→ふりかえり」です。また、「授業のはじめに小テスト（前時間の範囲）→本日の新出事項説明→演習」という方法もあります。

このALですが、米国立訓練研究所のラーニングピラミッド説が元になっており、講義は教える側からみれば効果的な伝達方法に見えるが、受講者側からすると講義を受ける受け身のスタイルだけではほとんど定着せず、人に教えられるような段階になってはじめて理解したと認識できるという説です。よってALでは他者へのアウトプットと自己の内省にフォーカスを置いています。

4. 評価

教師から高い評価をもらうことが学習の動機であるのは本末転倒で、おかしいと感じます。大事なのは生徒の成長であり自己評価力の向上です。自分の能力や立ち位置を自分で把握することができる力。社会に出たら通知表はありません。自分の能力が組織や社会にどう反映されるのかを自分で価値判断しなくてはならないのです。ですから自己評価力をつけてあげるためにどういう仕組みが必要かを考えてみてください。なお、評価について文部科学省は、基礎的・基本的な知識・技能は「知識・理解・技能」、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等は「思考・判断・表現」、主体的に学習に取り組む態度は「関心・意欲・態度」という観点別に評価することを達していますので、知っておいてください（中高ではその総合評価）。

1. そもそも よい授業とはどんな授業なのでしょう？

生徒の状態がどうなること？理想状態（授業を受ける前と受けた後と比較して）

教える側の状態がどうなること？（授業を行った後の状態）理想状態

2. 授業の基本技術に関するあなたへの問い（ペアやグループで）

Q1 学校で学ぶということのメリット（ビデオオンデマンドとどこが違うのか）は？

Q2 あなたが教える教科や科目を（生徒が）学ぶことの必要性は？ なぜ学ぶのか？

Q3 あなたが教える教科・科目の特性（他の教科・科目にない特徴）は？

Q4 1年の授業を通じて学んでほしい 学びの哲学、目標は何でしょうか？

Q5 あなたの授業で、学び方（教科教材を越えた学びのインフラ）を教えますか？
つまり学び方の学びとなる要素は何ですか？ それをどう教えますか？
{例：情報編集力、判断力、思考の整理、評価する力 etc}

3. OECD キーコンピテンシー、21世紀型スキル、国際バカロレアの理念

日本の学習指導要領はもとより、国際的に必要とされているコンピテンシー（能力、適格性）なども知っておきましょう。これらを念頭におくことで、ぶれない授業デザインができるようになります。

★OECD（経済開発機構）のキーコンピテンシー

- ①自律的に行動する能力
- ②社会的な異質の集団における交流能力
- ③社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力

★21世紀型スキル（これからの国際社会を生き抜く上で必要な力）

- (1) 思考の方法……創造性と革新性、批判的思考・問題解決・意思決定、学習能力・メタ認知
- (2) 仕事の方法……コミュニケーション、コラボレーション（チームワーク）
- (3) 学習ツール……情報リテラシー、ICT（情報通信技術）リテラシー
- (4) 社会生活……市民性（地域および地球規模）、生活と職業、個人的責任および社会的責任（文化的差異の認識および受容能力を含む）

※21世紀型スキル

国際団体である「21世紀型スキル効果測定プロジェクト」(ACT21s)が定めた。

★国際バカロレア 10の学習者像

Inquirers	探究する人
Knowledgeable	知識のある人
Thinkers	考える人
Communicators	コミュニケーションができる人
Principled	信念のある人
Open-minded	心を開く人
Caring	思いやりのある人
Risk-takers	挑戦する人
Balanced	バランスのとれた人
Reflective	振り返りができる人

※国際バカロレア

インターナショナルスクールや各国の現地校の卒業生に国際的に通用する大学入学資格を付与する仕組み

★生きる力（文部科学省）

「ゆとり」か「詰め込み」かではなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力表現力等の育成との両方が必要

基礎的・基本的な知識・技能の習得の重視

- 社会の変化や科学技術の進展等に伴い子どもたちに指導することが必要な知識・技能について、しっかりと教えます
- つまづきやすい内容の確実な習得を図るための繰り返し学習を行います

思考力・判断力・表現力等の育成の重視

- 各教科等の指導の中で、観察・実験やレポートの作成など、知識・技能を活用する学習活動を充実します
- 教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動を充実します

★21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（中央教育審議会 1996）

「これからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性である」。

4. 模擬授業をセルフチェックしてみよう

自分の授業を改善する（これから教員になる方は模擬授業対策としての）最適な方法をお教えしましょう。それは「ビデオにとって自己っこみを入れる」です。自分の授業をビデオに撮って見直してみることは最高の振り返りになります。否定しようのない生の自分と向き合うことになります。